

長尾地区について

長尾は宮前区北東部の多摩丘陵にあり、その中央低地を平瀬川が西から東に流れている。域内を東名高速道路が縦断し、市道野川柿生線(特別1号線)が横断している。「新編武蔵風土記稿」の土橋村の項に太田前、長尾に神木が記録されており、土橋村と合せて太田渋子郷が形成されていたと推測される。長尾村は、寛永10年(1633)、大河内・村上・木造氏などの旗本領であったが、その後、天領に変えられている。明治22年(1889)に平村・菅生村、上作延村の一部と合併して向丘村になった。昭和13年(1938)には川崎市に合併され、昭和47年(1972)には多摩区長尾になった。昭和57年(1982)には宮前区が誕生し、長尾地区は宮前区と多摩区に分割された。東高根遺跡は、昭和45年(1970)の調査で、台地全域から100軒以上の大集落跡が発見された。



県立東高根森林公園

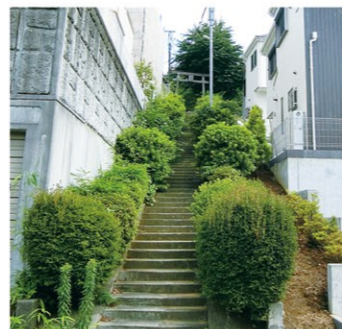
ポイント解説 (数字は裏面の散策コースのポイントに対応しています。)

① 十三坊塚の道標



王禅寺道に立つ道標を兼ねた庚申塔で、文化12年(1815)銘があり、「東二子道」「西王ぜんじ道」「北ふちう道」と記されている。十三坊台は、二子・溝口、あるいは王禅寺・府中方面に連絡する道路が通る交通の要衝である。

② 天満宮



明治41年(1908)、赤城神社は長尾神社に合祀されたが、末社の天満宮は合祀を免れた。住民の願いで谷長尾の鎮守として再建された。文政12年(1829)まで天満宮は等覚院境内にあった。

③ 千手堂



天台宗の寺で、本尊は千手観音像。準西国稻毛三十三所観音霊場第29番札所。古来、妙楽寺の境外仏堂として崇敬を受けた。堂脇には庚申塔など多くの石造物が並ぶ。

④ 平瀬川

宮前区内最長の川で、支流を含めた流路延長は約11km。昭和20年代まで、菅生・平・長尾などの水田を潤していた。改修前は流路が曲流し、頻繁に洪水を起こしていた。昭和20年(1945)、農業用水利改良工事により、鶴見川水系から多摩川水系に変えられた。

⑤ 等覚院神木観音堂



神木山等覚院の境外仏堂。準西国稻毛三十三所観音霊場第28番札所。本尊は、行基作と伝える十一面観音像。戦国時代から山根家一族が守り本尊として尊崇してきた。

⑥ 県立東高根森林公園

昭和43年(1968)頃、住宅団地建設の事前調査で弥生時代の遺跡が発見された。園内には樹齢150年以上のシラカシ林があり、県の天然記念物に指定されている。公園は起伏に富み、多くの谷戸が発達している。台地の麓には弥生時代の水田跡の推定地も残されている。園内には、古代芝生広場、湿性植物園、ピクニック広場などがある。

⑦ 喜津根坂

長尾村から宿河原方面に連絡する坂道であるが、東名高速道路の開通により分断された。多摩丘陵を上る鯉坂に続く下り坂であった。喜津根橋付近には石造物群がある。

参考文献

『新編武蔵風土記稿』平成4年 歴史図書社
『川崎地名辞典基礎原稿』平成8年 川崎地名研究所蔵
『川崎市石造物調査報告書』昭和54年度 川崎市教育委員会

⑧ 下原遺跡

昭和40年(1965)・41年(1966)、東名高速道路建設の事前調査で、縄文時代中期から古墳時代にかけての遺構を発見。その主体は縄文時代晩期で、一辺の長さが10m以上の大型住居を含め、7軒の住居があった。その他、約600本の石鏃を発見。

⑨ 長尾鯉坂遺跡

昭和40年(1965)、東名高速道路が多摩丘陵を分断する際に事前調査が行われた。同45年(1970)の調査では、縄文時代中期の集落跡から竪穴住居を発見。同時に、弥生時代に作られた一辺が20m以上の大型周溝墓も確認された。コイ地名は恋・己斐・鯉のほかコヤ・木屋・児屋の訛りとも云われ全国にある。いずれも砂礫、礫層・粘土層の緩傾斜地で地滑りなどの起きやすい土地といわれる。

⑩ 長尾権現台遺跡

縄文中期から後期にかけての配石遺構を伴う集落遺跡で、昭和33年(1958)の発掘調査では、底を欠いた勝坂式土器(縄文中期前葉)を炉に用いた隅丸五角形の住居跡が発見された。配石遺構は河原石の下に堀之内式土器(縄文後期前葉)が埋められており、石棒や、纏めて置かれた石斧・石皿・磨石などが狩猟祭祀を伺わせる。五所塚は遺跡と重なるようにあり、中・近世の祈禱塚と考えられている。疫病や悪霊が村へ侵入するのを防ぐため、尾根筋や村境などに設けられた。

⑪ 等覚院

天台宗の寺。本尊は秘仏不動明王立像。関東三十六不動霊場第6番札所。本尊の前に立つ木造薬師如来坐像は室町時代前期の作と言われ、川崎市の重要歴史記念物に指定されている。邪鬼の彫りものがある安政7年(1860)の手洗鉢は平成30年(2018)に川崎市地域文化財に指定された。



開発前の東高根森林公園周辺図



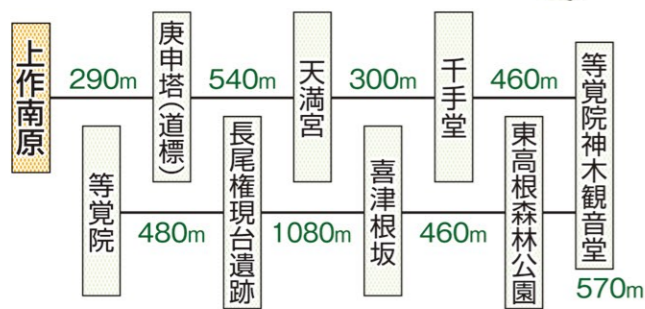
陸地測量部明治18年測量 2万分1迅速測図「登戸村」



長尾

緑の丘に遺跡を訪ねる

全長
約4.2km



インフォメーション: [上作南原]へのアクセス

(バス)「梶が谷駅」から
向01「向ヶ丘遊園南口」行きに乗車し、
[上作南原]バス停で下車してください。

『川崎の庚申塔』昭和60年度 川崎市博物館資料調査団
『川崎の民俗』昭和54年 角田益信著
『小学校社会科副読本「記念誌」』川崎市立小学校

歴史ガイドまち歩き⑦ 長尾

地図の見かた

- ③ 散策コースとポイント
- 幹線道路
- - - 古道
- - - 旧村界
- - - 旧大字界
- 有馬村 旧村名
- 大谷 旧大字名
- 太田前 旧字名
- 見どころ
- 矢上川 河川名
- ♀ バス停
- WC トイレ

谷戸・谷(ヤト)の豆知識

ヤトは、丘陵が河川に浸食されて作られた地形である。V字型に近い谷で、浸水があるため、湿地になる場合が多い。関東地方に多く分布するが、以前は谷(ヤト)と表記していたが、難読のため、谷戸と表記することが多くなった。

